

診療最前線

心臓血管外科



心臓血管外科医師
清水 剛

心臓血管外科では、外来診療を中心に幅広く心臓血管疾患の診療を行っております。手術は主に下肢静脈瘤に対して最新の治療を行っておりますので、ご紹介いたします。

下肢静脈瘤とは

下肢の伏在静脈という静脈の弁が壊れると、逆流が生じて下肢の血液が心臓方向に戻りにくくなります。下肢に血液が停滞すると、静脈がこぶのように膨らんで浮き出てきます（写真参照）。このような病状を下肢静脈瘤と呼びます。初期には無症状

ですが進行すると、足のだるさ、浮腫み、こむらがりなど様々な症状を引き起こします。さらに悪化すると、皮膚に色が付き、皮膚炎をおこしたり、潰瘍や血栓ができたりします。



下肢静脈瘤

下肢静脈治療のこれまで

下肢静脈瘤に対しては、伏在静脈の全長を引き抜く古典的なストリッピング手術が行われた時代もありましたが、よほどひどい静脈瘤でない限り手術は行われず、多くの方が弾性ストッキングを履いて様子を見るよう言

われていました。2011年に初めて「血管内レーザー焼灼術」（写真は本治療前後）が保険適用となると、やさしい低侵襲治療として注目が集まり、多くの方がこの治療を受けるようになりました。その後2014年には

当院での下肢静脈瘤のレーザー治療の1例

60代の立ち仕事の男性で、左下肢のだるさがあり、当院で左大伏在静脈血管内レーザー焼灼術および静脈瘤切除術を受けました。術後にだるさはなくなり、静脈瘤も治癒しました。



治療後

治療前

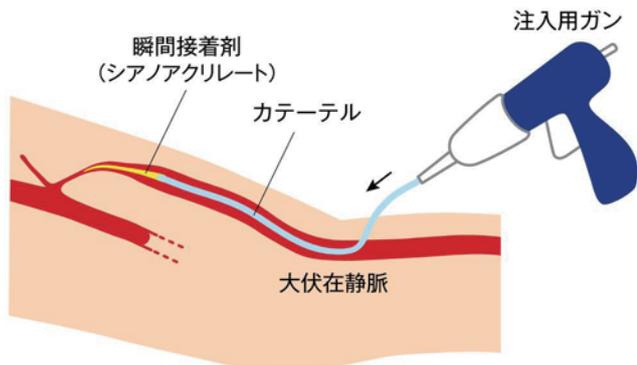
新しいタイプのレーザーや高周波による焼灼術が登場し、術後の出血や疼痛がさらに緩和されました。

下肢静脈瘤の最新治療

下肢静脈瘤の治療は近年飛躍的に進歩しています。ストリッピング手術から血管内治療へと移行し、血管内治療もより低侵襲の手法が行われるようになりました。欧米では、熱や浸潤麻酔を使用しないNTNTと呼ばれる治療法がいくつかあり、外来で施行後すぐ帰宅でき、生活や仕事に影響がない治療が進んでいます。この中でも、2019年に日本で承認された最新治療「血管内閉塞術（グルー治療）」をご紹介します。

血管内閉塞術（グルー治療）

この方法は、伏在静脈の中にカテーテルを挿入し、伏在静脈を圧迫しながらカテーテルの先端から伏在静脈内に瞬間接着剤



グルー治療の模式図

カテーテルの先端から瞬間接着剤を血管内に注入します

(シアノアクリレート)を注入して
伏在静脈をふさぎ、逆流を止める
治療です。熱を伴わないこの
治療は、周辺組織への影響がレ
ーザー治療よりも少なく、出血斑
や疼痛、神経障害などがさらに
生じにくいのが大きな特長です。
治療中の鎮静剤は必要なく、局
所麻酔もわずかな量であるため、
治療後すぐに帰宅でき、車の運
転や仕事も治療直後から可能で
す。もちろん保険適用です。

受診をご希望の方へ

当院では、今回ご紹介した
血管内閉塞術（グルー治療）
と血管内レーザー焼灼術、硬
化療法（静脈瘤内に硬化剤を
注入して静脈瘤をつぶす方
法）の主に3種類の治療法の
中から、それぞれの患者さん
に最も適した治療を選択し、
下肢静脈瘤の治療を行って
います。



グルー治療の様子（右下肢を治療しているところ）

受診をご希望の方は、事前に
心臓血管外来へお問い合わせ
ください。

TEL..026-278-2031

(代表)

(お問い合わせ時間..月～木曜日15時～17時)